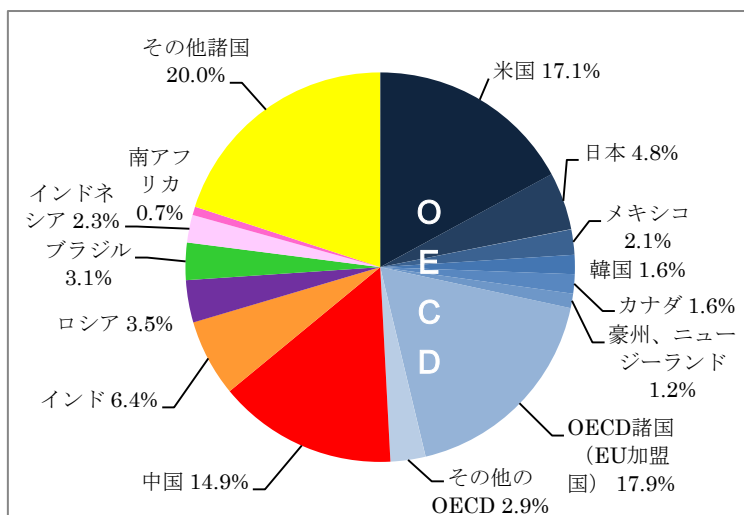


世界の GDP の約半分を OECD 諸国が、30%を主要新興国が占める（仮訳）

（訳注：本稿は2014年4月30日にOECDが公表した「OECD ACCOUNTS FOR ABOUT HALF OF WORLD GDP, LARGE EMERGING ECONOMIES FOR ABOUT 30%」を業務の参考に翻訳したものであり、日本政府の見解を表すものではありません。）

本日、国際比較事業（ICP）によって、最新の基準年である2011年の購買力平価（PPP）¹が公表された。それによると、2011年の世界のGDPの約50%（前回基準年の2005年では60%）をOECD諸国が、30%（2005年では約20%）を主要新興国（中国、ブラジル、インド、インドネシア、ロシア連邦及び南アフリカ）が占める。2011年の世界の経済力上位3か国は米国（17.1%）、中国²（14.9%）及びインド（6.4%）であった。

2011年購買力平価による世界GDPのシェア（%）



OECD諸国（EU加盟国）は、オーストリア、ベルギー、チェコ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、イタリア、アイルランド、ルクセンブルク、オランダ、ポーランド、ポルトガル、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、英国から構成される。

ICPは約200か国・地域が参加する世界最大の統計に関する共同活動であり、国際的に比較可能な形で物価水準を収集し、購買力平価（PPP）に基づき、国民総生産とその構成を推計する。

OECDはICPの協力機関であり、ユーロスタット（EU統計局）とともに、47か国について、2011年を基準年とする購買力平価によるGDPと最終消費を算出した。これら³は、

¹ ICP2011年ラウンドの主要結果、関係資料はICP世界事務所のウェブサイト参照 www.worldbank.org/data/icp。

² 中国の国家統計局（NBS）は採用された手法の複数の点について保留を表明し、本結果を公的統計として支持していない。

³ 2013年12月公表されたユーロスタット-OECD 2011基準年結果を参照。
<http://stats.oecd.org/Index.aspx?DataSetCode=PPP2011>

世界全体を対象とした ICP に含まれている。

購買力平価は経済活動の国際比較を行うのに適した通貨換算レートである。為替レートとは異なり、それは各国間の物価水準の差異を補正する。物価水準と所得が高い国々と、物価水準と所得が低い国々を考える場合、為替レートによる換算は、所得の高い国を過大評価し、所得の低い国を過小評価することになる。例えば、為替レートを用いた場合、OECD グループは世界の GDP の 3 分の 2 を占めるが、購買力平価を用いた場合、およそ半分である（表参照）。

2011 年 ICP プログラムの結果概要

	為替レート (1米ドル当たりの各国通貨)	購買力平価 (1米ドル当たりの各国通貨)	価格レベル指数 世界=100	世界の GDP に占めるシェア (%)		国民 1 人当たりの GDP 指標 購買力平価ベース 世界=100	人口 (百万人)
				為替レートベース	購買力平価ベース		
OECD *			137	66.7	49.2	266	1246.9
豪州	0.969	1.511	201	2.1	1.1	312	22.8
カナダ	0.990	1.243	162	2.5	1.6	305	34.5
フランス	0.719	0.845	151	4.0	2.6	270	65.1
ドイツ	0.719	0.779	140	5.2	3.7	305	81.8
イタリア	0.719	0.768	138	3.1	2.3	252	60.7
日本	79.81	107.5	174	8.4	4.8	255	127.8
韓国	1108	854.6	99	1.6	1.6	216	49.8
メキシコ	12.42	7.673	80	1.7	2.1	122	115.7
スペイン	0.719	0.705	126	2.1	1.6	239	46.1
トルコ	1.682	0.987	76	1.1	1.5	132	74.0
英国	0.624	0.698	144	3.5	2.4	261	62.7
米国	1.000	1.000	129	22.1	17.1	370	312.0
ブラジル	1.673	1.471	113	3.5	3.1	109	192.4
ロシア	29.35	17.35	76	2.7	3.5	167	143.0
インド	46.67	15.10	42	2.7	6.4	35	1216.0
インドネシア	8770	3606	53	1.2	2.3	63	241.0
中国	6.461	3.506	70	10.4	14.9	75	1342.0
南アフリカ	7.261	4.774	85	0.6	0.7	90	50.5

* 本掲の OECD 諸国は、実質 GDP ベースで全世界の 1 % 以上を占めるものである。

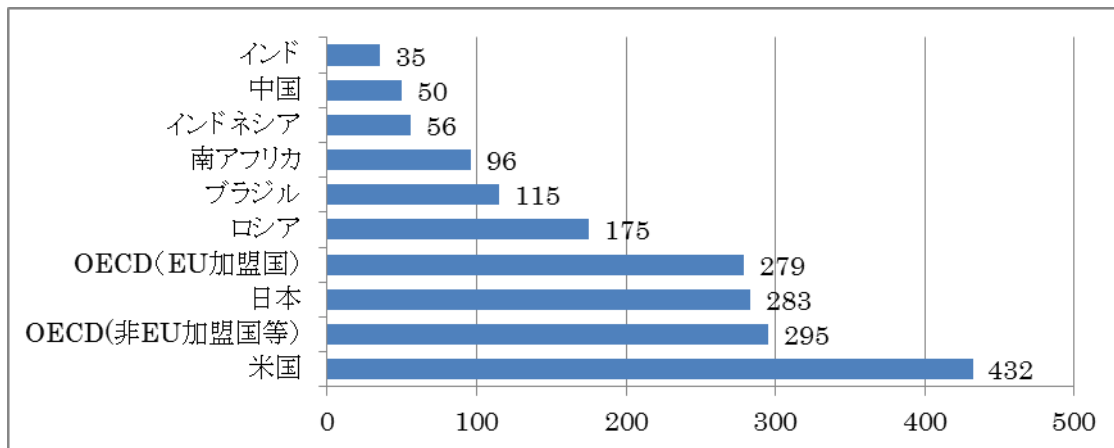
国民一人当たりで OECD 諸国の GDP を見ると、購買力平価で表した場合は世界の 2.5 倍（訳注：原文ママ）である。世帯の物質的豊かさを国際比較する際に参考となる現実個別消費支出⁴を見ると、世界平均の約 3 倍である。

このほか、新興国における国民一人当たりの現実個別消費支出を見ると、世界平均の

⁴ 現実個別消費支出 (AIC) は実際に個人により消費された財、サービスから構成され、これらの財、サービスが家計、政府、非営利団体のいずれかに購入又は支払われたものかは問わない。

1.75 倍（ロシア）から 0.35 倍（インド）と相当な差異が見られる。

2011 年国民一人当たりの現実個別消費支出（世界=100）



更なる情報を求めるジャーナリストは、OECD メディア課(tel: + 331 4524 9700; news.contact@oecd.org)まで連絡されたい。

購買力平価に関する OECD の業務についての追加的な情報は、以下で閲覧可能である。

www.oecd.org/std/prices-ppp/